

新年会が開催された

1月25日(木)14時過ぎからメルパーク横浜で恒例の新年会が開催された。組合からの情報連絡としては、岸部理事長から10年に1回改訂される建築鉄骨の取り決めであるJASS6の改訂は鉄骨工事指針、精度指針に及ぶとし、今回の主要な改訂点はレ形30度開先が認められた、レーザー孔あけの使用が認め



られた、溶融亜鉛めっきの摩擦面でのりん酸塩処理が認められた、社内検査と受入検査が個別に取り扱われたなどで、重要なことなので3月15日開催の性能評価基準マニュアル集説明会の時に併せて詳細を報告する。全構協の鉄骨技術研究開発制度での研究テーマを募集しているので現在研究中のもので応募の意志があれば組合の技術委員会に申し出てもらいたい。今年度災害対策の充実強化として備蓄品充実の助成措置をとっているが申請が少ないので大いに活用してもらいたいと要請があった。続いて恒例の新春講演会

は浜銀総合研究所八木正幸特任研究員から「2018年のわが国経済の見通し」について県内経済の動向も踏まえて講演があった。(要旨は別掲)

16時30分から、来賓を招待して賀詞交歓会を催した。冒頭、岸部理事長は「賃上げの風潮があるが、業界としては経営力向上を目指して5S運動を展開したり、働く環境を整えていくことが大事である。2020年までは景気は堅調のようなので頑張っていくがそれ以降は受注には注意が必要のよう

である」と挨拶を述べられ、来賓のご挨拶では、菅官房長官の新田秘書は「長官は在任6年目となる、政治基盤が安定しているこの政権で少子高齢化などの課題に取り組み、生活が充実されるよう国・県・市ともに頑張っていく」、加藤県会議員は「来年再来年に様々なイベントが企画されているのでその準備を確実にやっていく」、山崎県産業振興課長は「有効求人倍率も1倍を超え、県内経済の回復も続き、県の中小企業支援の取り組みは、産業技術総合研究所の強化、県が認定する頑張る企業への応援、



経済特区の新たな展開など実施していく」、坂和市長は「みなとみらい地区の開発計画



講演「2018年のわが国経済の見通し」要旨

わが国経済はアベノミクス下で息の長い回復が続くが、景気回復の実感がない。2016年から回復基調が鮮明になった。2017年は欧米・中国経済の回復により輸出が伸びている。公共、企業の投資活動も活発で、個人消費も緩やかな改善がみられる。非常に堅調といえる。

家計部門は、所得・雇用情勢の改善が下支え、完全失業率は93年以来の低水準、有効求人倍率は74年以来の高水準、雇用者報酬も5年連続増加している。株価上昇の資産効果もある。ただし、家計の節約志向は根強く、日銀の生活意識調査での1年後の世帯収支見通しでは収支変わらないが大勢を占めるが、収支ともゆっくりと増える傾向も示している。県内の業種別業況感を見ると建設業製造業は良いが多いが目先は落ちる、小売業は低水準横ばいながら目先は改善の傾向にある。消費の回復力を殺ぐ構造は高齢化の進展により若い世代の減少で購買力の厚みが不足することや消費スタイルの変化が挙げられる。

企業部門は、輸出は欧米・中国経済の景気拡大により2016年から増勢が持続し、2018年も引き続き回復基調にある。世界銀行のシナリオもインフレ圧力がかかってくるが若干の加速とみており、日本の輸出も良くなる。設備投資は企業業績の改善などを受け、内部留保も積みあがっており、高水準を維持すると見込まれる。今後も良好な収益環境が期待でき、強まる設備の不足感、省力化・効率化投資が後半に拡がっていく。

建設工事も高めの水準で推移する。県内では研究施設、物流施設への投資が目立つ。ただし住宅着工は横ばいで推移するもよう。2020年の完工に向け工事が進むが、20年以降の着工件数がどの程度積みあがってくるか読み切れないこともあり、工事の達成感が出た場合には外部環境が悪化することに注意が必要であろう。

はほぼ確定し、京急本社、村田製作所の研究施設、アリーナが予定されている。インフラの老朽化による建替えは10年間に学校350校、住宅1,300戸が計画されている」、米森全構協会長は「大型工事が多くなっているが、これらが滞るとRC造にとって換わられる恐れがあるので高規格材を時限措置でHグレード企業も対応できるように検討している。また、落橋問題での品質管理体制の検討を踏まえ今後品質管理の徹底を推進していく」との言葉をいただいた。

青木国大名誉教授の乾杯の音頭により歓談が進められ、賛助会員の紹介も交え、加藤相談役の中締めで終了した。参加者は100名を超え、盛会だった。

役員会だより

新年会に先立って12時から役員会を開催した。

- ・3月15日(木)午後JASS6改訂などに伴う性能評価基準マニュアル改定の説明会を県民センターで開催することになった。
- ・来年度事業計画では組合加入促進と支部会活動の活発化を重点とし、5S運動の推進を継続していくことになった。支部会活動の推進方策は今後事業運営委員会で協議することになった。

澤田副理事長が優良役員表彰を受賞

1月10日(水)10時30分からヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルで行われた神奈川県中小企業団体中央会の新年会の席上において澤田副理事長は、中央会森会長から組合の発展と業界の振興に尽力されたとして表彰された。



平成29年度(第9回)神奈川県高校生溶接コンクールでの貢献

毎年実施されている神奈川県高校生溶接コンクール(県溶接協会が主催)が29年11月23日(木)に県内の工業高校生徒7校17名が参加し、日本溶接技術センター(川崎市)で行われた。この大会には本組合から練習材200枚、優勝者への副賞として最新の遮光面を贈呈しており、特に遮光面は生徒より羨望の眼差しが送られている。これは若い世代の溶接技術の向上に少しでも寄与しようと組合が3年前から実施しているもので、今後も継続していくことになっている。



(記事及び写真は「K&W神奈川と溶接第57号」から引用・転載しました)

青年部の横顔

No. 2



佐原工業㈱
専務取締役 鈴木 昭典
横須賀市久里浜1-2000
TEL 046-835-6662
FAX 046-834-5890
E-mail
sahara.kk@mist.ocn.ne.jp

三浦半島の久里浜に会社があり、歴史を紐解けばペリーが来航して開国したのも久里浜でした。

この仕事について24年になり、様々な経験を積み、鉄骨の飛躍的な進歩に対応してきました。その礎になってきたのが組合活動です。仲間からの情報は最大の勉強となりました。

趣味は旅行で、鉄道で全国を旅しました。なかでも「東海道53次路線バスの旅」は急いで移動する新幹線では見逃してしまうような景色がみれました。

いまは私の影響か、電車大好きになった息子と週末を利用して江ノ電を中心に首都圏の路線を楽しんでいます。これが私の癒しとなって仕事の活力源となっています。



NDI-UTレベル1基礎講座の開催

全構協関東支部では資格取得推進の一環として1月24日(水)から28日(日)にかけての5日間、NDI-UTレベル1受験資格の40時間訓練を習得するための講習会を埼玉ポリテクセンターで開催した。探傷装置の取扱い方から垂直・斜角の基礎及び実習、問題演習までを内容とするもので、神奈川、東京、埼玉、群馬の14名が参加。



災害対策用備蓄品充実助成 ～お早めに申請してください～

災害発生時には多くの対応が必要となりますが、飲食料、薬品、毛布などの生活必需品が重要な要素になります。このため備蓄品を充実整備した場合組合ではその費用の一部助成を行っております。
助成額 2万円を上限とする
期 間 2月末までに申請を

工場移転 1月5日 (有)斎藤鉄工 新住所 綾瀬市上土棚中3-8-53 Tel0467-84-9845 fax0467-84-9846